

子供が輝く東京・応援事業
【成果連動型助成(既存の取組のレベルアップ)】

事業の成果評価の進め方

2020年10月

構成

- I. 子供が輝く東京・応援事業【成果連動型助成(既存の取組のレベルアップ)】における成果評価の位置づけ

- II. 成果評価の方法

I 子供が輝く東京・応援事業【成果連動型 助成（既存の取組のレベルアップ）】にお ける成果評価の位置づけ

1. 成果連動型助成のねらいと成果評価の必要性

- ◆ 成果連動型助成とは、助成事業の成果に応じて助成率を変動させる助成制度であり、以下を目的に実施します。

(1) 都民に対して事業成果の普及を図ること

成果評価を実施することにより、都民に対して事業の成果を明確に開示し、事業成果の普及を図ること。

(2) 事業活動の促進につなげること

助成事業の成果に応じて助成率を変動させることにより、成果目標の達成に向け、事業の創意工夫を高めるなど、より事業活動の促進につなげること。

(3) 事業や活動における学び・改善につなげること

成果評価の実施にあたり、事業の効果・成果を検証することにより、事業や活動における学びや改善につなげること。

～子供が輝く東京・応援事業【成果連動型助成(既存の取組のレベルアップ)】公募要領



成果を可視化することが必要

2. 本事業における「成果」及び「成果評価」の定義

◆ 本事業において、「成果」及び「成果評価」は次のように定義します。

『成果』

事業の**活動実績(アウトプット)**や

それによりもたらされた**社会的・環境的な成果(アウトカム)**

『成果評価(=達成度評価)』

成果を定量的・定性的に把握し、

当該事業について価値判断を加えること

3. 成果の可視化(成果評価)のポイント

◆ 成果評価には次のようなポイントがあります。

1. 事業により達成したい**成果目標(アウトカム目標)**の明確化
2. **評価対象**の設定
 1. 事業対象者(受益者)の明確化
 2. 事業実施期間の設定
3. 成果目標達成に至るまでの**論理的な道筋(ロジックモデル)**の明示
4. 成果目標の達成状況を定量的に測る**成果指標**の設定
5. 成果指標に対する**目標値**の設定
6. 成果指標の**測定方法**(情報源、評価方法)の提示

4. 成果評価と助成率決定の考え方

◆ 成果連動型助成においては、成果評価の結果により助成率が変わります。

(1) 基本的な考え方

成果連動型助成は、**事業の活動実績(アウトプット)や成果(アウトカム)の達成状況により助成率を変動**させるものです。成果を示す指標を設定し、その指標の実績を客観的なデータにより測定して、事前に設定した目標値との比較により達成度を評価します。

(2) 評価の対象

評価の対象は、事業の「結果＝アウトプット」及び「成果＝アウトカム」とします。

(3) 評価の方法

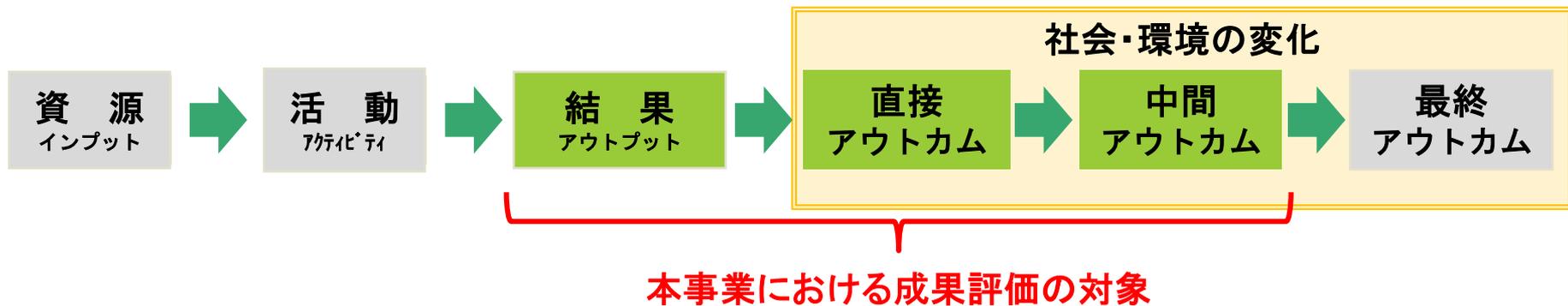
評価においては、ロジックモデルに示した**アウトプット、アウトカムの達成状況を客観的な数値で測定する指標及び目標水準を事前に設定し、目標の達成度**で評価します。

～子供が輝く東京・応援事業【成果連動型助成(既存の取組のレベルアップ)】公募要領より一部抜粋

Ⅱ 成果評価の方法

1. 基本的な用語

- ◆ 本事業では、事業によりもたらされる成果に着目します。
- ◆ 助成率決定の判断基準になるのは「アウトプット」と「直接アウトカム」、「中間アウトカム」です。



『資源(インプット)』『活動(アクティビティ)』『結果(アウトプット)』『成果(アウトカム)』の関係は、上図のように一連の流れ図のような関係にあります。

- 資源(インプット) : 資金、人員、場所・施設等、事業の実施に必要な投入物
- 活動(アクティビティ) : 事業者が実際に従事する具体的業務
- **結果(アウトプット)** : 事業者の活動により産み出されるサービス等の結果
- **成果(アウトカム)** : アウトプットにより生まれる社会的・環境的な価値

2. 成果評価のステップ(全体像)

◆ 成果評価は次のようなステップで実施します。

応募段階で計画を立てることが必要

ステップ0
事業対象の確認

事業対象(受益者、対象期間)を明確にする

ステップ1
ロジックモデルの作成

事業目標実現に向けた、事業のインプット、アクティビティ、アウトプット、アウトカムのロジック(因果関係)を整理する。

ステップ2
成果指標・目標値の設定

ロジックモデル上で特定されたアウトプット、アウトカムのそれぞれの要素について、指標及び目標値を設定する。
また、各指標の定義・計算式や定量化の方法、情報源を一覧的に可視化する。

ステップ3
データ収集

成果指標について、既存統計やアンケート、インタビュー調査等を通じてデータを集める。

ステップ4
データ分析

集めたデータを分析し、設定した目標値が達成できているか期待した成果があがっているかを確認する。
また、達成・未達成の要因、課題を分析する。

ステップ5
評価結果の報告・活用

評価結果を報告する。
事業改善につなげる。

2. 成果評価のステップ

【ステップ0】事業対象の確認

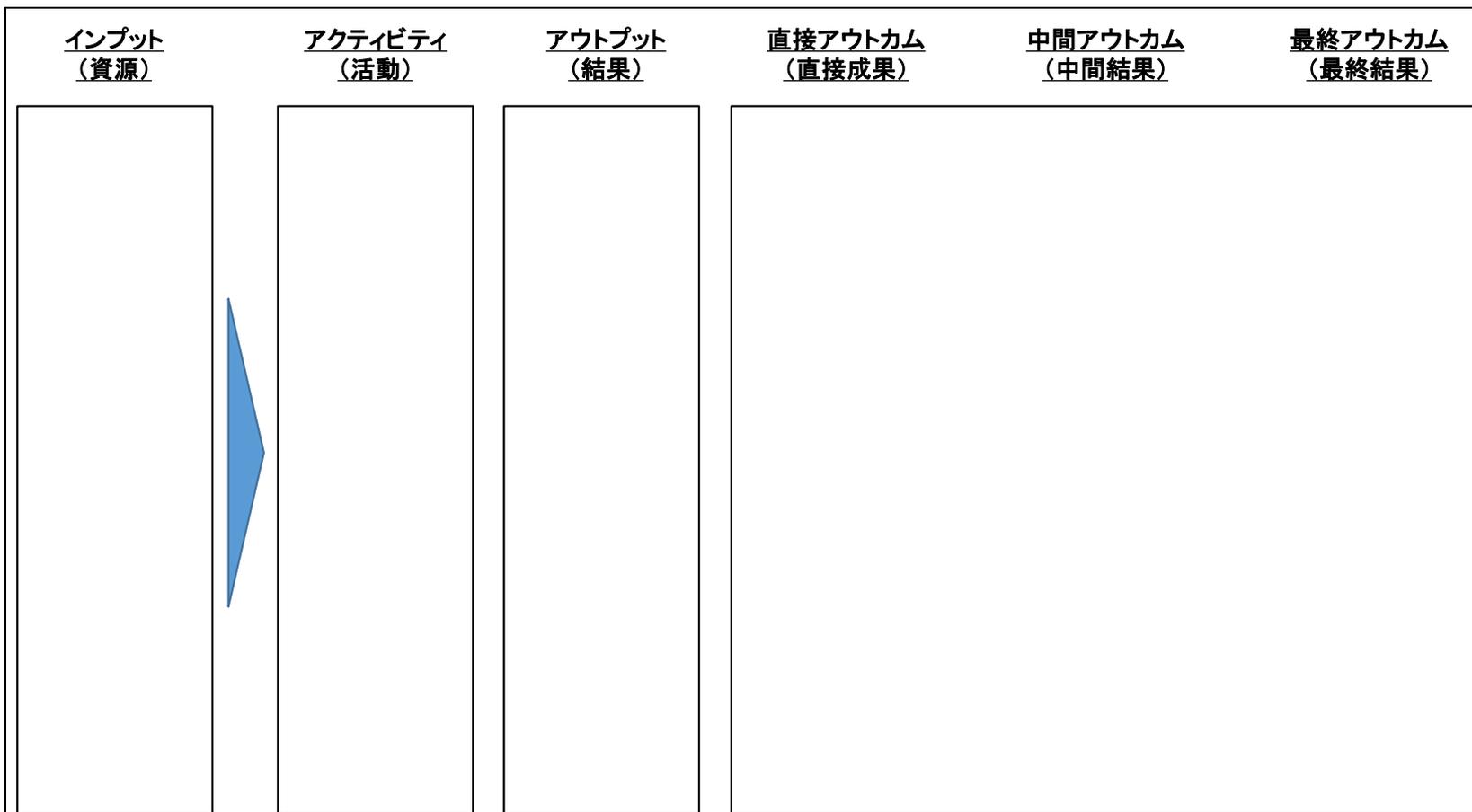
- ◆ 事業対象となる、受益者や事業対象期間を確認します。これらが、成果評価を実施する際の対象になります。

項目	概要	例
受益者	事業の受益者は誰か、人数はどのくらいかを明確にする	<ul style="list-style-type: none">●●区に住み、働きながら未就学児の子供を育てるお母さん△△名●●(テーマ)に関心がある20代～30代の若者△△名
事業対象期間	事業の評価対象となる期間を明確にする	2021年4月～2022年1月 <ul style="list-style-type: none">研修会を○回開催研修会参加者に対しワークショップを△回開催

2. 成果評価のステップ 【ステップ1】ロジックモデルの作成

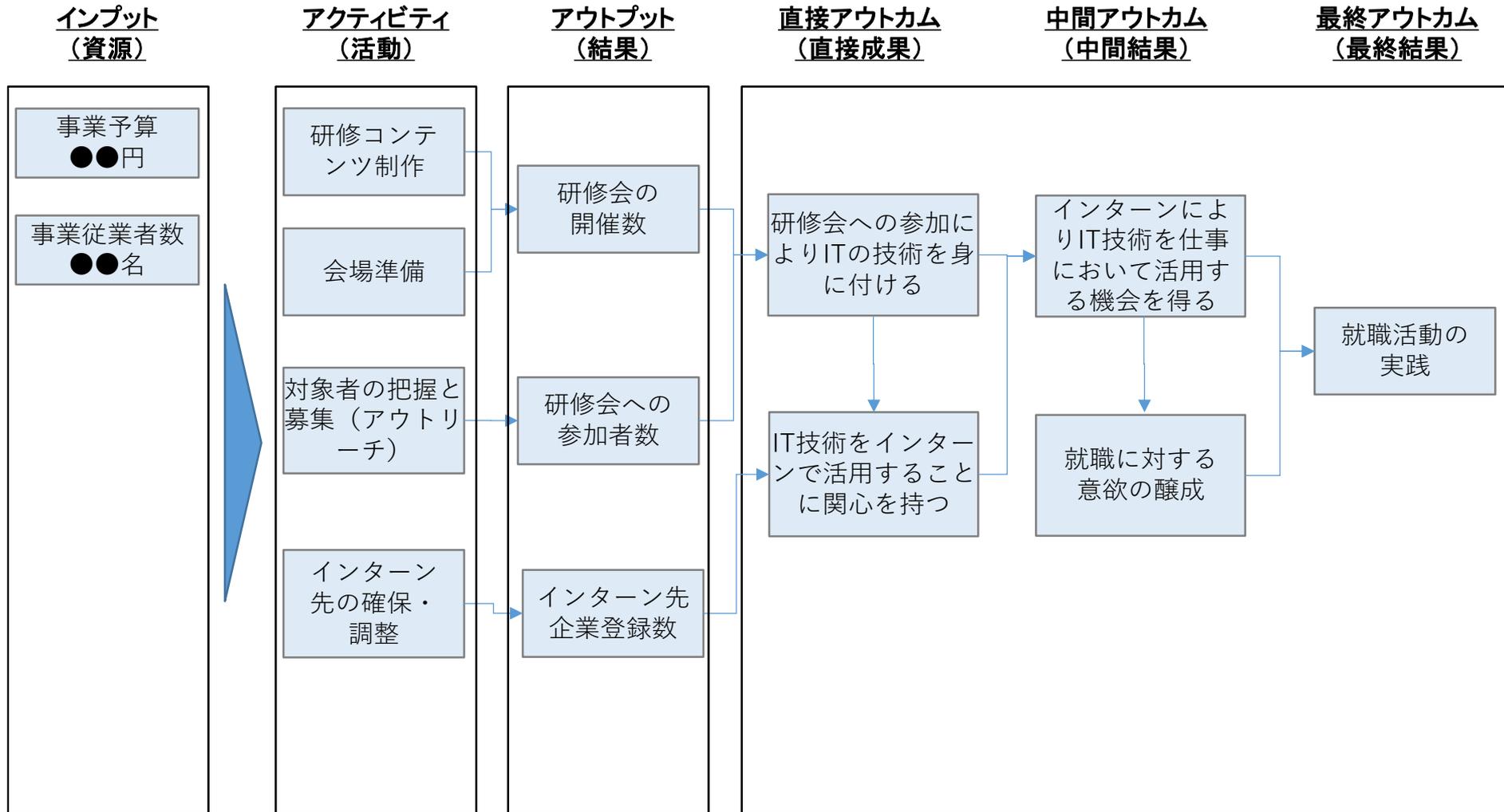
◆ ロジックモデルの様式に事業の活動、結果、及び、成果を示します。

(応募様式 I 別添) ④ロジックモデル



2. 成果評価のステップ

【ステップ1】ロジックモデルの作成



2. 成果評価のステップ

【ステップ1】ロジックモデルの作成

- ◆ ロジックモデルは事業の成果を生み出すための仮説です。
- ◆ ロジックモデル作成の手順は次の通りです。

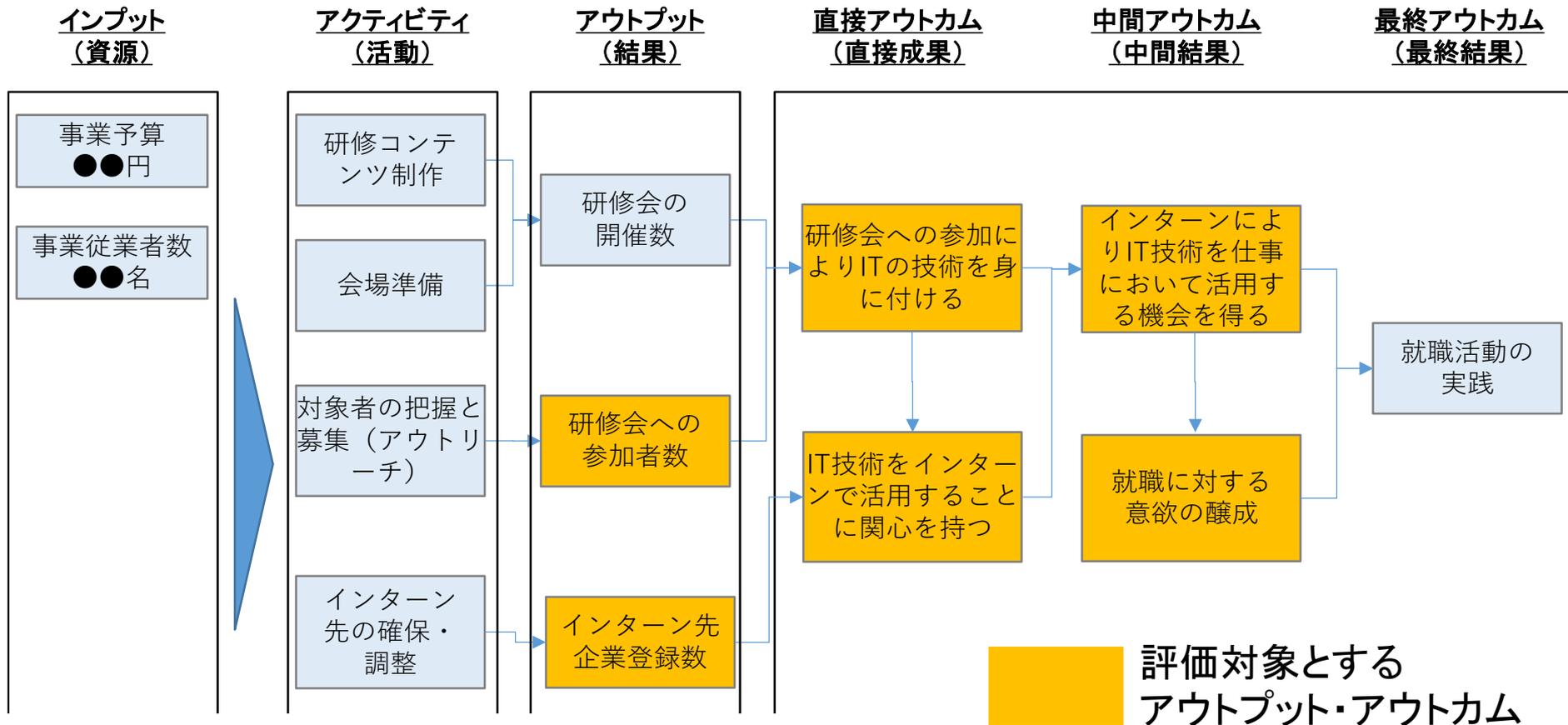
1. 事業のゴールを明確にし、それを達成するためにどのようなアウトカムを生み出すのかを明らかにする
2. アウトカムを実現するために必要なアウトプット(結果)、アクティビティ(活動)やインプット(資源)を明らかにする
3. 上記の要素を書き出し、要素間の関係を矢印で示す
4. ロジックモデルを点検する
 - ① ロジックモデルの各要素に関係のない項目はないか？
 - ② 重複している箇所はないか？
 - ③ 作成したロジックモデルは現実的に実行可能か？
 - ④ ロジックモデルの各要素は論理的につながっているか？

※ロジックモデルは、複数名で議論をしながら、付箋紙に要素を書き出し、それを動かしながら作成するのがポイントです。

2. 成果評価のステップ

【ステップ2】成果指標・目標値の設定

- ◆ 成果指標はロジックモデル上の各要素に設定することができます。
- ◆ 助成率決定にあたっての評価対象となるのはアウトプット、直接アウトカム及び中間アウトカムです。



2. 成果評価のステップ

【ステップ2】成果指標・目標値の設定

- ◆ 成果指標は、ロジックモデルに示したアウトプット及びアウトカムの達成状況を定量的に測るために設定するものです。
- ◆ 成果指標の目標値は、過去の事業実績に照らすなどして設定してください。

(応募様式 I) 事業実施計画 ⑤成果指標

⑤ 成果指標・目標値

※ロジックモデルで設定した成果指標のうち、評価対象とする指標(アウトプット指標・直接アウトカム指標・中間アウトカム指標で各区分最大2つまで設定可能)について、設定した指標・目標値(事業実施期間終了時の達成目標値)の妥当性も含めて記載すること。

a アウトプット指標

・研修会参加者数 ●●人

(指標の定義) 研修会に参加した実人数。

(目標値設定の根拠) 事業拡大により昨年度の参加者数から〇〇人の追加を図る。

・インターン先登録企業数 ●●社

(指標の定義) インターンシップ受入れの協定書を締結した企業数。

(目標値設定の根拠) 昨年度からの継続企業△△社に〇〇社の追加を図る。

2. 成果評価のステップ

【ステップ2】成果指標・目標値の設定(続き)

⑤ 成果指標・目標値

b 直接アウトカム指標

•研修修了者数 ●●人

(指標の定義)研修会の修了テストに合格した人の数。

(目標値設定の根拠)昨年度までの事業により、研修会終了後に実施するテストに合格するのは7割程度であった。今回は、研修参加者のフォローを行い、修了テスト合格率を8割程度に高める。

•インターンシップ登録者数 ●●人

(指標の定義)研修修了者のうち、インターンシップに登録した人の数。

(目標値設定の根拠)昨年実績では研修修了者のうち4割がインターンに登録した。今年度は、インターンへの関心をより喚起する内容を研修に入れることにより、5割の登録を目指す。これにより、インターン登録者数の目標は●●人となる。

c 中間アウトカム指標

•インターンシップ修了者数 ●●人

(指標の定義)インターンシップ登録者のうちインターン全日程を修了した人の数。

(目標値設定の根拠)昨年度は、研修を修了してインターンシップに登録した人のうち、実際に全日程を修了した人は4割程度いた。今年度は、インターン期間中のフォローを入れることによりこの割合を5割に高めるため、●●人と設定する。

•就職意欲向上率 ●●%

(指標の定義)インターンシップ修了者に対してアンケートを実施し、「インターンを通じて就職に対する意欲が高まった」と回答する人の割合。

(目標値設定の根拠)インターン実施中のフォローによりこの割合を昨年度水準(6割)より高い7割まで高める。

2. 成果評価のステップ 【ステップ3】データ収集

- ◆ 評価に使う主なデータには以下のようなものがあります。
- ◆ 評価を行うの事業実施後ですが、どのようなデータを集めるかは事前に計画しておく必要があります。

主な情報源	概要
事業(内部)データ	事業者が事業実施の過程で収集するデータ 例：参加者数、参加回数
統計データ	公的な統計を始めとする既存の統計データ 例：人口、出生率、労働力率
アンケートデータ	受益者等に対して質問票を配布し、その回答を集計したもの

2. 成果評価のステップ 【ステップ4】データ分析

- ◆ 設定した目標値を達成しているかどうかを、集めたデータに基づいて示します。
- ◆ 成果は、事業によってもたらされた変化であるため、どのようにして変化を示すのかがポイントになります。

(再掲)「成果」及び「成果評価」の定義

『**成果**』

事業の**活動実績(アウトプット)**や

それによりもたらされた**社会的・環境的な成果(アウトカム)**

『**成果評価(=達成度評価)**』

成果を定量的・定性的に把握し、

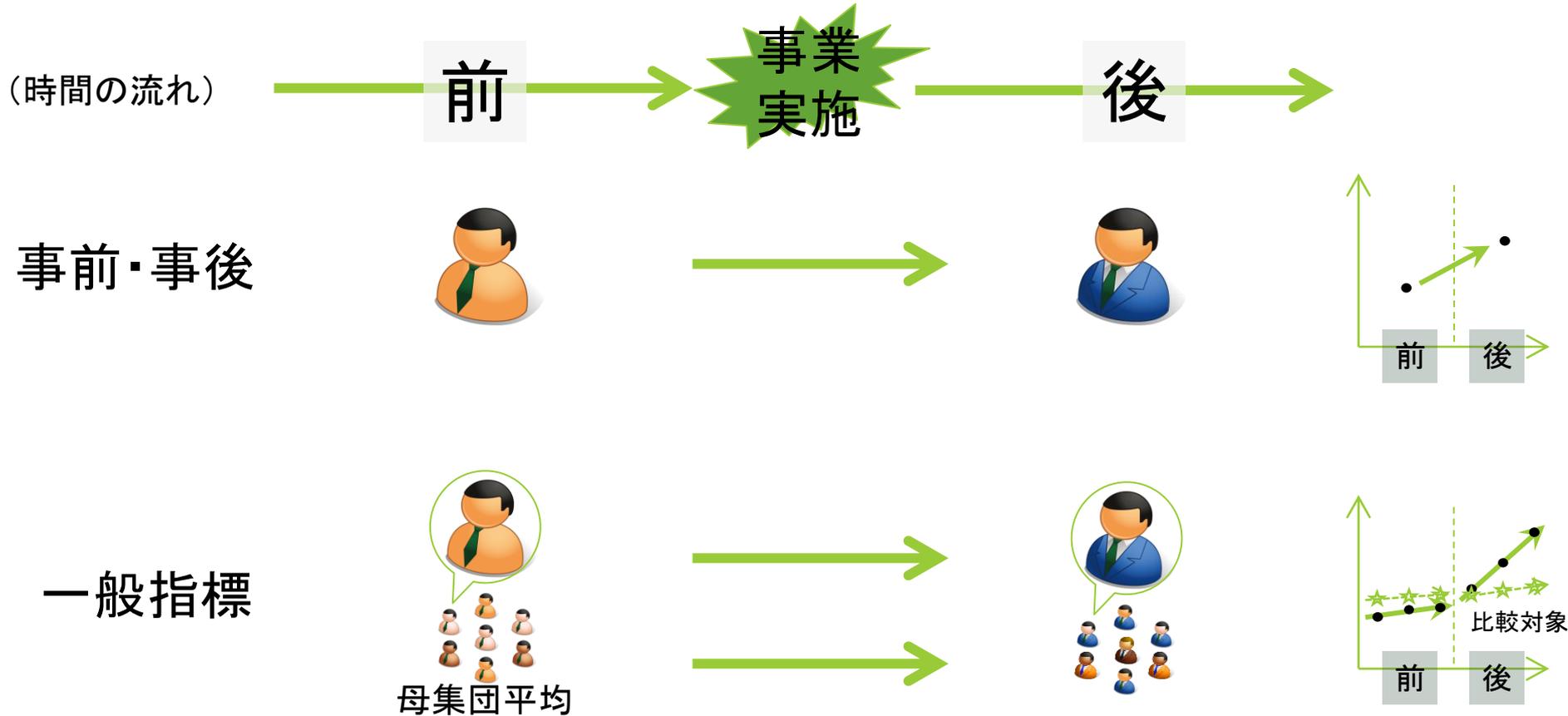
当該事業について価値判断を加えること



変化を示すことが必要

2. 成果評価のステップ 【ステップ4】データ分析

◆ 変化の示し方にはいくつかの方法があります。



2. 成果評価のステップ

【ステップ3】データ収集／【ステップ4】データ分析

◆ 成果指標を設定する際に、データ収集の方法も併せて検討します。

(応募様式) 事業実施計画 ⑥測定方法

⑥測定方法

※評価対象とする指標のデータ測定方法や、測定のタイミングについて記載すること。

a アウトプット指標

•研修会参加者数 ●●人

団体内部の研修登録者リストにより、R〇年〇月〇日までに集計

•インターン先登録企業数 ●●社

団体内部の登録企業リストにより、R〇年〇月〇日までに集計

b 直接アウトカム指標

•研修修了者数 ●●人

団体内部の研修受講者リストにより、R〇年〇月〇日までに集計

•インターンシップ登録者数 ●●人

団体のデータベースにより、R〇年〇月〇日までに集計

c 中間アウトカム指標

•インターンシップ修了者数 ●●人

インターン受け入れ企業から提出される入社記録により集計

•就職意欲向上率 ●●%

インターン修了者へのアンケートにより集計

2. 成果評価のステップ

【ステップ5】評価結果の報告と活用

- ◆ 評価結果は所定の様式にて財団理事長宛てに提出し、助成率の決定に活用します。
- ◆ 加えて、事業者にて、事業の改善等にも活用できます。

子供が輝く東京・応援事業 評価対象指標達成状況報告書 (記載項目のイメージ)

1. 事業名
2. 評価対象指標及び達成状況
 - ・ 指標
 - ・ 定義／計算式
 - ・ 目標値
 - ・ 実績値
 - ・ データ収集方法・情報源
3. 総括

- 東京都福祉保健財団理事長宛てに提出
⇒助成率の決定に活用
- 事業者の内部において、事業の見直し・改善に活用